

うそだらけの系譜

— 宇佐美系譜 —

宇佐美系譜とは

紀州徳川家に仕えた宇佐美家が作らせた家系図です。江戸時代以前の(図1、図2)と、江戸時代のもの(図3)の2つがあります。中には、宇佐美家の先祖とその活躍が書かれています。その場合がほとんどです。



図1 宇佐美系譜①表紙
和歌山県立文書館蔵「宇佐美系譜」

このようなところが多い!

図3 宇佐美系譜③

図2 宇佐美系譜①裏表紙

	(正)	(偽)
宇佐美 定行	越後国の長尾氏に仕え、長年にわたり上杉家の勢力拡大をさまたげました。のちに上杉家に任ぜられます。	実際には関係していません。中島の上杉軍を大破し、200の首をとったとされています。

宇佐美家文書とは

宇佐美定祐が紀州藩士になる際に、家系の信用度を高めるために提出したものです。父の勝興がねつ造したとされています。

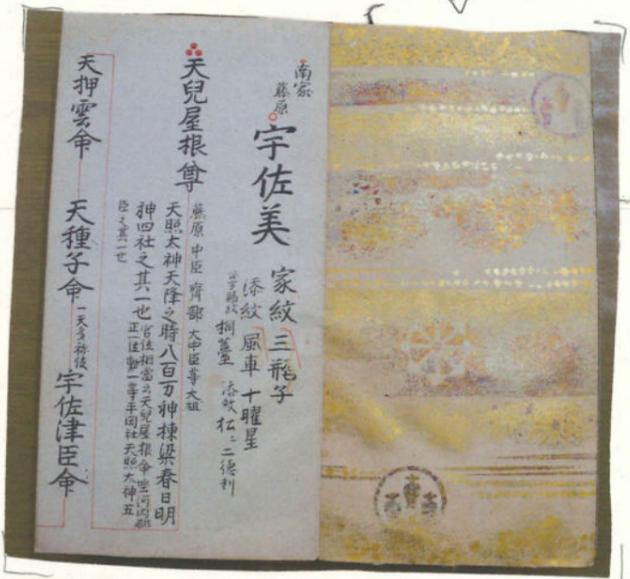
源頼朝、足利尊氏、上杉謙信、豊臣秀吉、石田三成、真田信繁(幸村)などからの手紙が残されています。

同月廿八日景虎と晴信大戦于川中島下末宮大克之晴信敗北也定行為奇兵横撃于信玄陣大破斬首二百餘級今日景虎得大勝斬獲田原助武田大坊板垣三郎朝比奈左京武田飛騨守半管善四郎栗田諸崎守津田三郎左衛門帯兼刑部寺五千餘人足置武田駿兵也天文廿三年管領上杉憲政約謀管領職上杉称号而成父子之契乃賜諱一字自是景虎改名於政虎同八月十八日政虎与武田晴信大戦于川中島自卯至未十七戦政虎得十一勝也晴信統中軍二千(借涉屋川)大敗于河原道急掩擊于政村而望視政虎敗績引兵鳴鼓而横衝晴信中軍而破之晴信逃入御幣川政虎逐之与晴信搏鬪于河中斬晴信傷之晴信脱馬脱去政虎回馬首而登岸武田信繁欲取政虎而追及政虎奮奮劍斬殺信繁武田諸陣皆敗潰... 此日越國猛帥高杉源五郎頼治死之

家紋がかわれた立派な本

定行為奇兵横撃
信玄陣大破斬首
二百餘級

宇佐美家の
最初は神様
から藤原氏
つながります



宇佐美 勝行
存在しない人物。定行に息子はいなかったとされている。

父勝興が亡くなった2年後に紀州藩士となります。その際に、宇佐美家文書で先祖の身分を証明したそうです。

「上杉謙信の軍師・宇佐美定行の子孫」を名乗り、紀州徳川家の祖である頼宣に軍学者として招かれました。

宇佐美 勝興

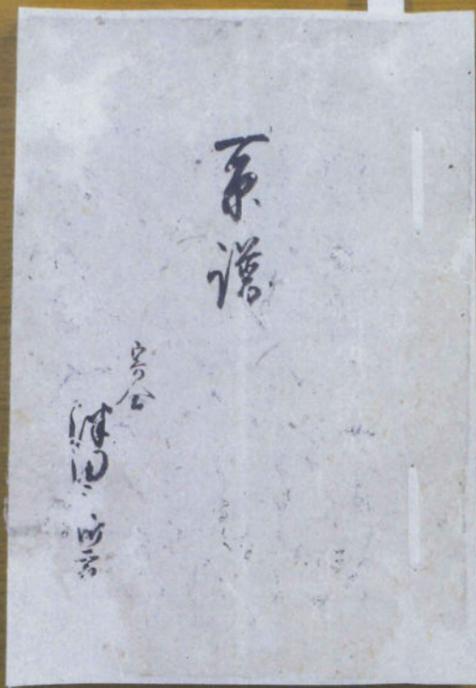
宇佐美 定祐

定祐
和光進又彦四郎
寛永十七年十月
頼宣君に御目見
慶安二年被召

出典
高橋修『異説』もうひとつの川中島合戦 紀州本川中島合戦四屏風の発見』洋泉社、2009
『和歌山県立文書館だより』第20号、2007

津田出を輩出した津田家とは

—「紀州家中系譜並に親類書書上げ」から考える—



1. 「紀州家中系譜並に親類書書上げ」とは

紀州藩士が家督相続や新たに人を召し抱える際に、「系譜」と「親類書」を提出したものがまとめられているものです。その数はおよそ15,700点にも及び、歴代当主の功績や役職なども記されています。

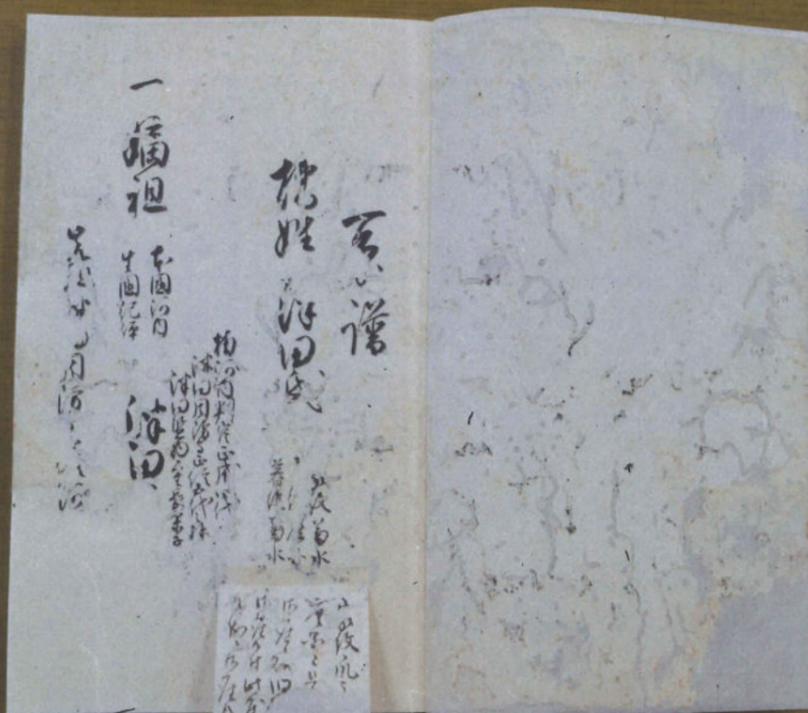
2. 津田出の功績

津田出は主に和歌山藩の藩政改革を行った人物です。明治2年に藩主茂承からの懇請を受け、財政難に陥った藩を立て直すため、藩士の家禄削減を行ったり、明治6年の政府による「徴兵制」に先駆けて、徴兵制を実施し、プロイセンのカルル・ケッペンを雇入れ、軍の増強をはかりました。その後、元老院議員などを歴任し、1923年9月には、貴族院議員に勅選されました。



津田出
(1832-1905)

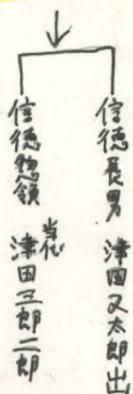
出典 和歌山県史—近現代1—



3. 津田家とは

津田家は始めから代々紀州藩に仕えていましたが、あまり高い身分ではありませんでした。初代は「御左門坊主」という客を左門に案内する仕事で、「表御右筆日記方本儀」という日記を書く仕事を行っていました。その後藩主に気に入られたのか、藩主の側室の御用人や「御徒頭格」、「御納戸頭」など数々の役職に就きました。このように津田家は代々同じ役職に就くのではなく、色々な役職に就く家だったということが考えられます。

4. 左の矢印の部分の解説



信徳(父)の長男は津田又太郎出で、当代の惣領は津田三郎二郎と記されています。弟が当代の惣領となってますが、これは出が病がちなため家督を弟に譲ったからです。この弟は後の津田正臣、初代和歌山県知事です。

参考文献

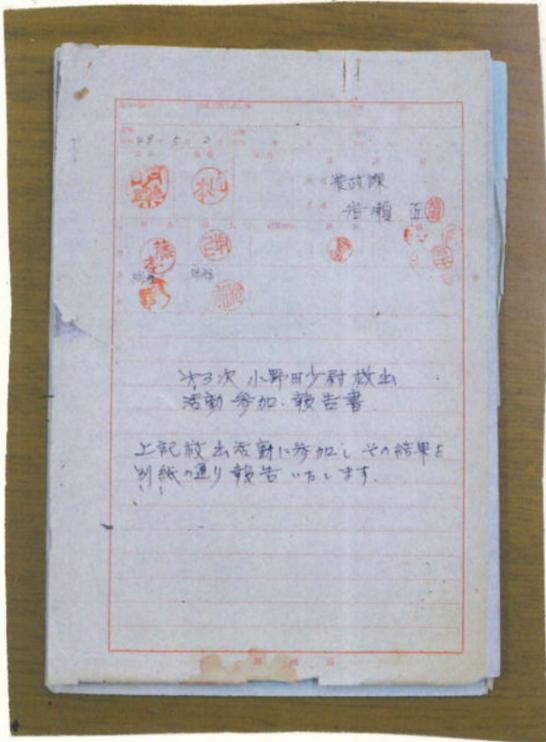
- ・堀内 信『南紀徳川史(第八巻)』名著出版、昭和44年4月22日発行
- ・和歌山県史編纂委員会『和歌山県史 人物』和歌山県、平成元年3月31日発行
- ・和歌山県史編纂委員会『和歌山県史 近現代1』和歌山県、平成元年4月30日発行
- ・和歌山県立文書館『古文書・公文書等の収集・保存・整理・活用—和歌山県立文書館の業務—』和歌山県立文書館、令和6年10月発行

出典 和歌山県立文書館所蔵

「紀州家中系譜並に親類書書上げ」整理番号8976番(津田三郎二郎)

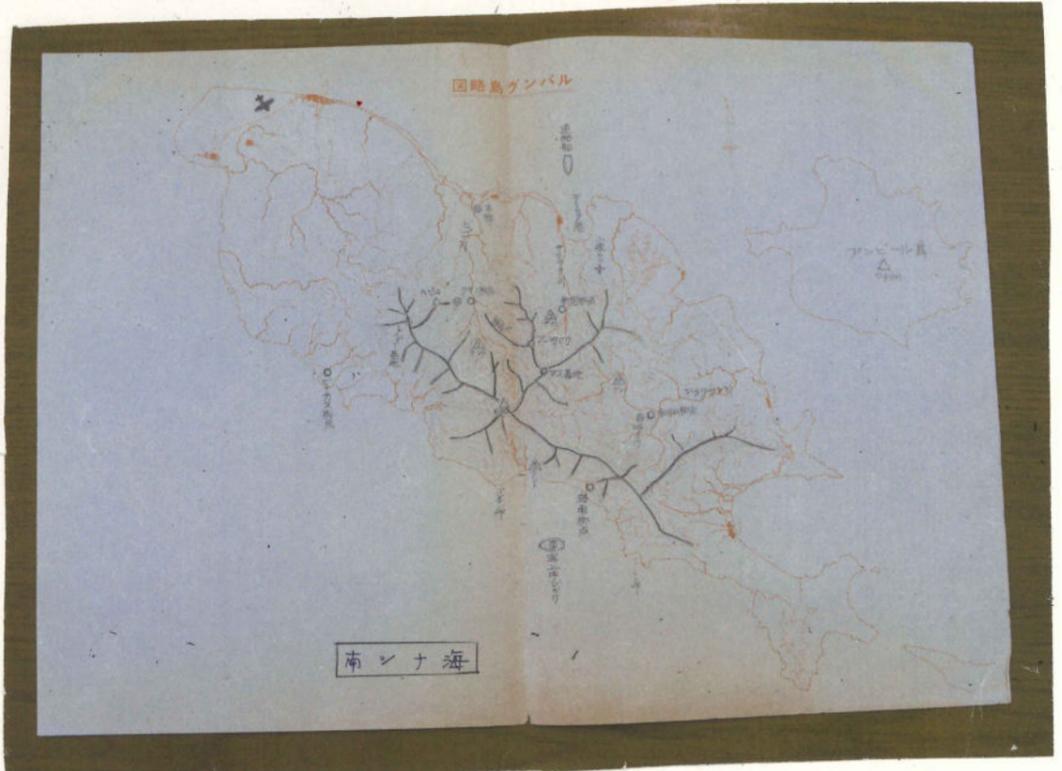
約30年の潜伏、小野田少尉帰国前年の救出活動

① 第3次小野田少尉救出活動参加報告書



②

ルバング島

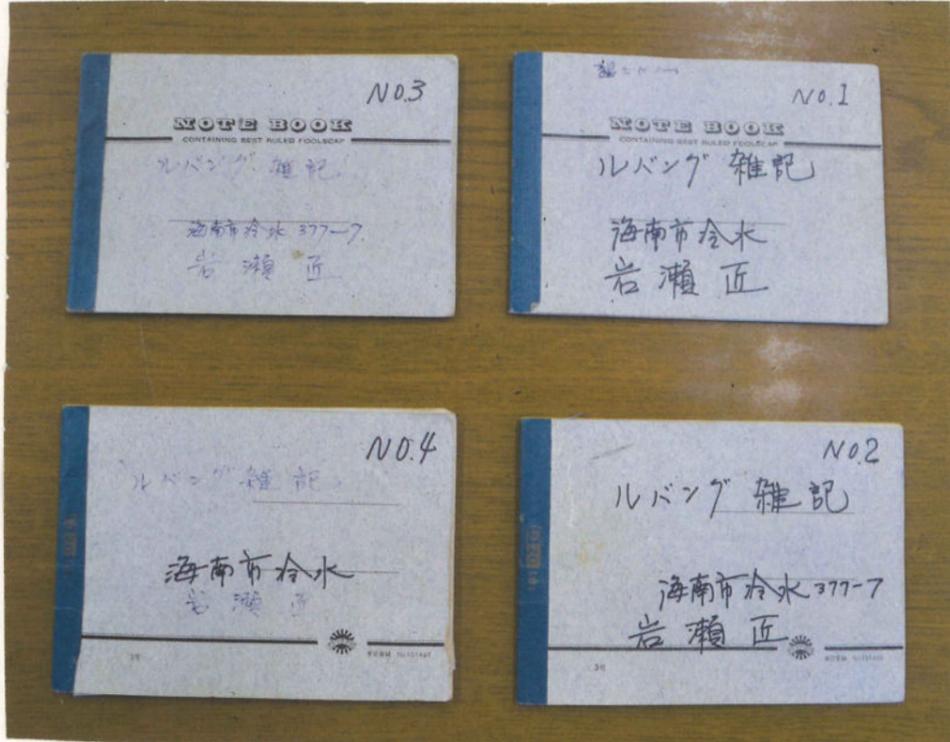


③ 日記と行方メモ

2月20日 海南島第一集宿舎 (油庫グループノ2名)
 2月21日 集宿 (海南島第一集宿舎)
 2月22日 海南島第一集宿舎 (油庫グループノ2名)
 2月23日 ルバング島 集宿 (油庫グループノ2名)
 2月24日 ルバング島 集宿 (油庫グループノ2名)
 2月25日 第1期小野田少尉救出活動参加報告書
 2月26日 集宿 (油庫グループノ2名)
 2月27日 集宿 (油庫グループノ2名)
 2月28日 集宿 (油庫グループノ2名)
 2月29日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月1日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月2日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月3日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月4日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月5日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月6日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月7日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月8日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月9日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月10日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月11日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月12日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月13日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月14日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月15日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月16日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月17日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月18日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月19日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月20日 集宿 (油庫グループノ2名)

3月21日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月22日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月23日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月24日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月25日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月26日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月27日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月28日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月29日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月30日 集宿 (油庫グループノ2名)
 3月31日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月1日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月2日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月3日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月4日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月5日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月6日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月7日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月8日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月9日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月10日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月11日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月12日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月13日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月14日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月15日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月16日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月17日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月18日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月19日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月20日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月21日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月22日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月23日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月24日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月25日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月26日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月27日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月28日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月29日 集宿 (油庫グループノ2名)
 4月30日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月1日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月2日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月3日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月4日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月5日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月6日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月7日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月8日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月9日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月10日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月11日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月12日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月13日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月14日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月15日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月16日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月17日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月18日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月19日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月20日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月21日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月22日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月23日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月24日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月25日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月26日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月27日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月28日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月29日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月30日 集宿 (油庫グループノ2名)
 5月31日 集宿 (油庫グループノ2名)

④ 4冊の小ノート



出典：和歌山県立文書館所蔵『小野田少尉救出活動参加報告書等』

角題 解説 海南島出身である小野田少尉の救出活動報告書や救出活動に参加して岩瀬貞さんの書き留めた小ノート4冊等の資料。小野田少尉は終戦後もシリビエ、ルバング島で潜伏し、帰国してはいなかった。その生涯があり、小野田少尉が写っていることが明らかになった。しかしすぐ救出活動は始まる。20年後の昭和49年に活動が始まる。①の写真から、今日で第3回目であると思われる。②は島の形と各拠点や舟の位置がわかる。③は④の11に書いてある日記を簡単にまとめた公文書である。この③の後にはその日のことが詳しく書かれている。中には「はじめての海水浴、泳ぐのも歓迎、元で「ルバング島が活動基地に感謝」など楽しんでいるように見える文章もある。また、たき火の跡や火にかけて使った跡のあつぽも見つかるなど、何かしらくらしの跡が見つかっていた。しかし中には足のけがについての文章や「捜索はあと1日、涙が出てくるといふ文章があり、岩瀬氏は決して楽しいことばかりでなく、大半は必死の捜索活動であった。またタイトルの通り小野田少尉は今日で見つかってはならず、捜索失敗という結果は涙の原因となっていた。

補足 小野田少尉はどのようにして帰国したのか。引用：永井均『昭和の扉を開く』広島大学島根研究所 2019年
 発見：第3次小野田少尉救出活動の翌年(昭和49年)に探検家である、鈴木紀夫が発見。
 経緯：鈴木がルバング島で日章旗を掲げてテントを設営していると小野田少尉から急襲にあい銃を撃たれることで、小野田少尉と接触。その後、小野田少尉を落着かせ、上官からの任務解除命令が伝われば、投降するといふ。その後、元上官の谷口氏により任務解除命令が「出下事」(日本へ帰国した)。

参考文献 『文書館下刊』第43号、平成27年7月